個別施設計画一覧表（橋梁）

【更新年月日：令和2年12月14日】

個別施設整理番号	林道台帳索引番号	路線名	林道種類及び区分	橋梁名	所在地	起点からの距離	建設年度	供用年数	種別	形式	道路橋示方書	橋格（設計荷重）	橋下条件	橋長（m）	幅員（m）	上部工形式	橋台工型式	橋脚工形式	海岸からの距離（km）	施設の現況			計画内容					優先度	措置記録						備考
																				点検実施年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施予定時期	対策費用（概算：百万円）		実施年月日	内容		対策費用（百万円）	再判定実施年月日	再判定区分	
																								分類	概要（数量）					分類	概要（数量）				
	5-1(1001)	小武川線		小武川1号橋	韮崎市円野町		1963	57	PC橋	PCT桁橋	不明	2等橋(TL-14)	小武川	114.3	4.2	PC T桁	逆T式	壁式	ー	2019年8月6日	Ⅳ	桁断面欠損	R2～R6	補修	断面修復他	R3	4.8	高	2020年10月	詳細調査	残存プレストレス	4.6			
		小武川線		小武川2号橋	韮崎市円野町		不明	不明	RC橋	コンクリート床版橋	不明	不明	小武川	58.7	4.0	RC T桁	重力式	不明	ー	2019年8月22日	Ⅱ	桁にひびわれ	R2～R5	補修	ひびわれ他補修工	R2～R5	1.0	中							
		小武川線		小武川3号橋	韮崎市円野町		1983	36	鋼橋	鋼桁橋	不明	2等橋(TL-14)	小武川	32.7	4.4	鋼I桁	重力式	ー	ー	2019年8月21日	Ⅰ	概ね健全	R2～R5	点検	ー	R6	0.7	中	2014年3月	補修	補強、塗装				
		御座石線		青木橋	韮崎市清哲町		2003	16	鋼橋	鋼桁橋	不明	1等橋(TL-20)	河川	51.1	5.2	鋼H桁	重力式	不明	ー	2019年8月20日	Ⅱ	床版にひびわれ	R2～R5	補修	ひびわれ補修工	R2～R5	0.3	中							

韮崎市林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

１．基本的事項

小武川１号橋　橋長 114.3m(4 径間) 総幅員 4.2m(有効幅員 3.6m)

建設年度　昭和 38 年 3 月(供用年数 56 年)　橋梁種別　PC T桁橋

２．対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

３．計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

４．施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

５．施設の状態等

損傷個所が支点部であり、耐荷力に及ぼす影響が大きいため、道路橋の機能に支障が生じる可能性が高く緊急に措置を講ずべき状態である。

６．対策内容と実施時期

主桁端部の断面修復、伸縮装置の取替えを令和 3 年度に実施予定であり、4 年後の令和 6 年度に定期点検の予定である。

７．対策費用

約 4.8（百万円）

※個々の施設毎に作成　　橋梁一覧（個票）

個別施設整理番号		林道台帳索引番号	5-1(1001)	施設管理者	韮崎市
路線名	小武川線	林道種類及び区分		橋梁名	小武川1号橋
施設の所在地	韮崎市円野町	起点からの距離		建設年度	昭和38年3月
供用年数	57年	種別	PC橋	型式	PCT桁橋
道路橋示方書	不明	橋格（設計荷重）	不明	橋下条件	河川

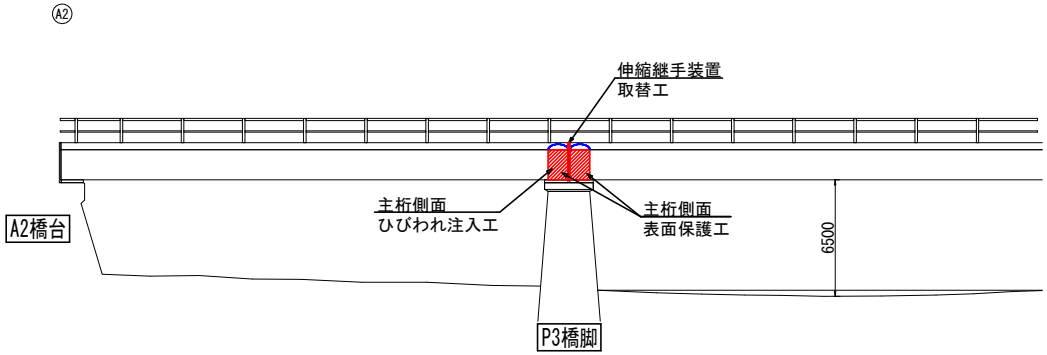
施設概要	施設の規模	橋長（支間長）	114.3m(28.575m)		幅員（車道幅員）	4.2m(3.6m)
	施設の構造等	上部工形式	PCポストテンション方式　T桁橋			
			鋼製（使用鋼材）	ー	塗装使用の有無	ー
			支承型式	鋼製支承	落橋防止の有無	無
		橋台工形式	逆T式橋台（推定）		基礎型式	不明
		橋脚工形式	壁式橋脚		海岸からの距離	ー
	施設の目的 利用実態等	林道小武川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該橋梁は各自治体(国土交通省･山梨県)の工事業者等により頻繁に利用されている。又、当該林道は、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年8月6日				
	調査結果	P3橋脚上部の主桁端部と一部の横桁に水分の浸透による鋼材腐食と重車両通行による振動、疲労による断面欠損が確認された。また伸縮装置にフェースプレートの変形、後打ちコンクリートの劣化によるアンカー露出も確認された。				
	健全性の 診断結果	Ⅳ （緊急措置段階）	損傷箇所が支点部であり、耐荷力に及ぼす影響が大きいため、道路橋の機能に支障が生じる可能性が高く、緊急に措置を講ずべき状態である。			
	劣化原因	伸縮装置部などからの漏水による、主桁等への水分の浸透による鋼材の腐食膨張および、重車両の通行過多による振動による疲労劣化。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度　～　令和6年度				
	内容	主桁端部の断面修復、伸縮装置取替えの補修工事を行う。				
	実施予定時期	早期措置として、令和3年度に補修工事を予定している。				
	施設の優先度	高	当該施設（小武川1号橋）含む林道は、隣接市などを結ぶ生活道路および観光事業に関連した道路としての機能も有しているため、優先度は「高」とした。			
	対策費用 （概算）	・令和3年度＝4,800千円（補修工事）　・令和6年度＝700千円（定期点検）				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	4.6	4.8			0.7					
対策の内容・実施時期	詳細調査	補修工事			定期点検					

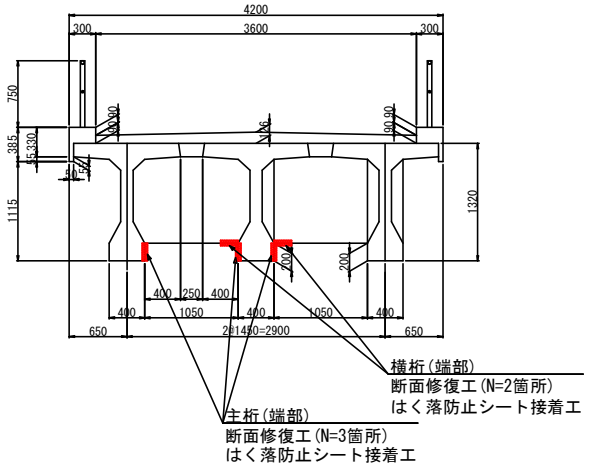
備　考
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

小武川１号橋　補修一般図

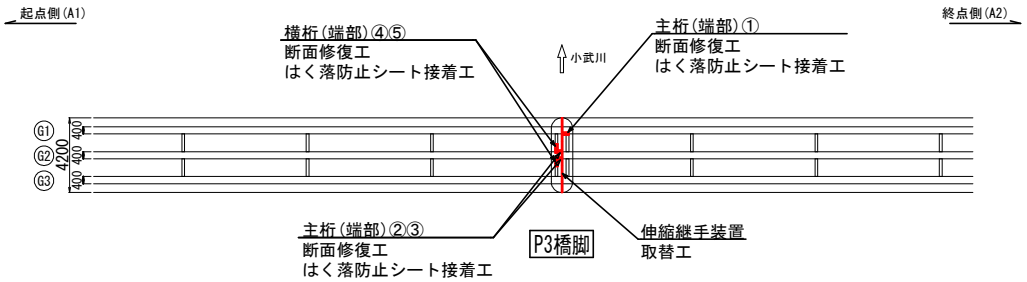
側 面 図　S=1:50



断 面 図　S=1:30



平 面 図　S=1:50



韮崎市林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

１．基本的事項

小武川２号橋　　橋長 58.7m(5 径間)　総幅員 4.0m(有効幅員 3.6m)

建設年度　不明(供用年数　不明)　　橋梁種別　RC　T桁橋

２．対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

３．計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

４．施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

５．施設の状態等

道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態

６．対策内容と実施時期

桁下及び橋脚にひびわれ･鉄筋露出、路面に凹凸が見られ、令和 2 年～令和 5 年に補修予定であり、5 年後の令和 6 年に定期点検の予定である。

７．対策費用

約　1.0(百万円)

※個々の施設毎に作成　　橋梁一覧（個票）

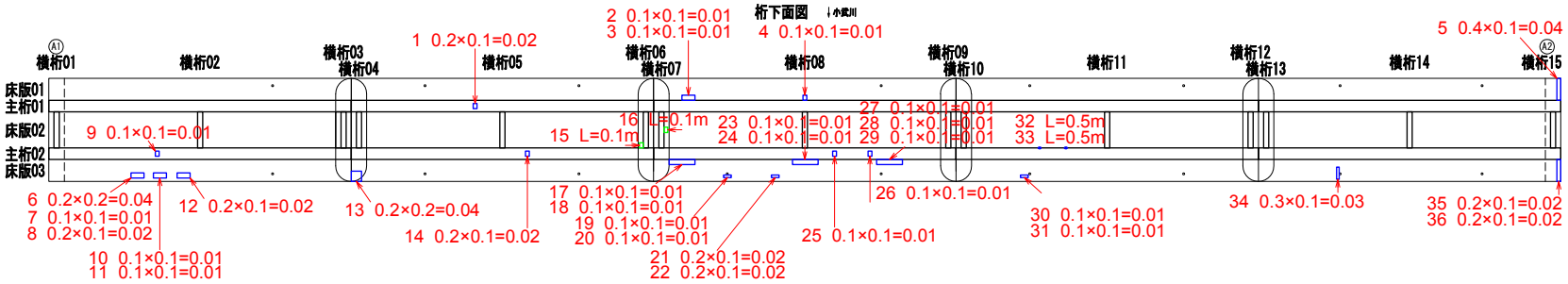
個別施設整理番号		林道台帳索引番号		施設管理者	韮崎市
路線名	小武川線	林道種類及び区分		橋梁名	小武川2号橋
施設の所在地	韮崎市円野町	起点からの距離		建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格（設計荷重）	2等橋(14t)	橋下条件	小武川

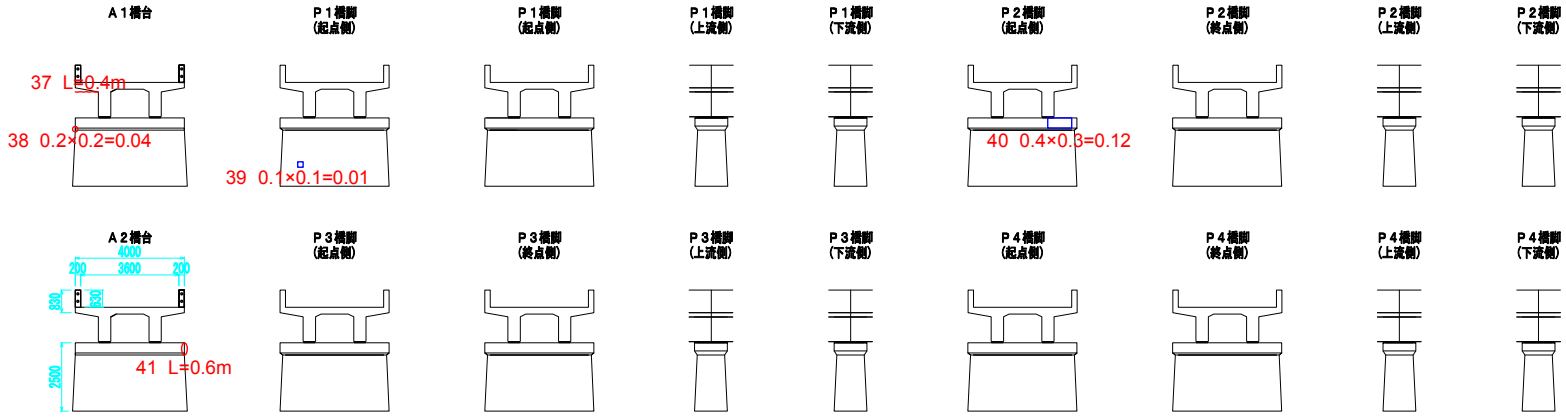
施設概要	施設の規模	橋長（支間長）	58.7m(11.74m)		幅員（車道幅員）	4.0m(3.6m)
	施設の構造等	上部工形式	RC　T桁			
			鋼製（使用鋼材）	―	塗装使用の有無	―
			支承型式	鋼製支承	落橋防止の有無	無
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	直接基礎
		橋脚工形式	不明		海岸からの距離	―
	施設の目的利用実態等	林道小武川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該橋梁は各自治体(国土交通省･山梨県)の工事業者等により頻繁に利用されている。又、当該林道は、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年8月22日				
	調査結果	桁に深刻なひびわれと支承に腐食･ボルトの脱落･ゆるみが確認された。このまま放置すると工事車両の通行による振動や内部に侵入した雨水により、鋼製支承の腐食等が進み、確実に劣化が進展すると共に最悪の場合、落橋の恐れがある。				
	健全性の診断結果	Ⅱ（予防保全段階）	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態			
	劣化原因	疲労･排水不良等による複合劣化による				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和5年度				
	内容	ひびわれ補修工法及び断面修復工法により、補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮する。				
	施設の優先度	中	（優先度の考え方） 継続中である森林関連工事のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用（概算）	長寿命化対策として、桁のひびわれ補修工及び断面修復工を早期に行うと共に、5年に1回の定期点検を行う。又、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。				

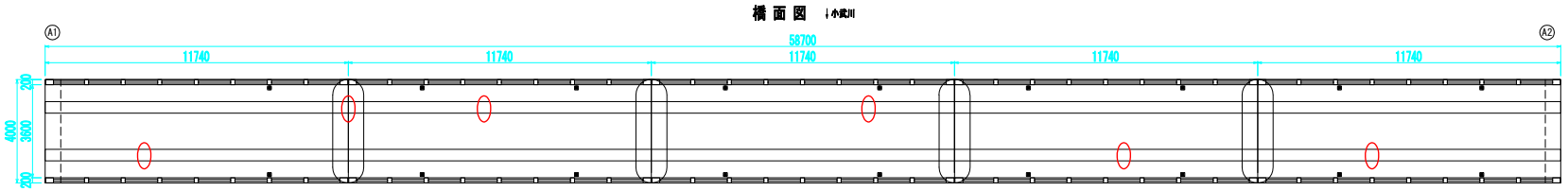
	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用（百万円）	0.7	0.3		0.6		0.7				
対策の内容･実施時期	定期点検	舗装補修		補修工		定期点検				

備　考

小武川２号橋　概算数量図







断面修復工　数量表

No.	計算式	面積(㎡)	数量(㎥)	備　考
1	0.2×0.1	00.2	0.006	深さ0.03とする
2	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
3	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
4	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
5	0.4×0.1	00.4	0.012	〃
6	0.2×0.2	00.4	0.012	〃
7	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
8	0.2×0.1	00.2	0.006	〃
9	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
10	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
11	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
12	0.2×0.1	00.2	0.006	〃
13	0.2×0.2	00.4	0.012	〃
14	0.2×0.1	00.2	0.006	〃
17	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
18	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
19	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
20	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
21	0.2×0.1	00.2	0.006	〃
22	0.2×0.1	00.2	0.006	〃
23	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
24	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
25	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
26	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
27	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
28	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
29	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
30	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
31	0.1×0.1	00.1	0.003	〃
34	0.3×0.1	00.3	0.009	〃
35	0.2×0.1	00.2	0.006	〃
36	0.2×0.1	00.2	0.006	〃
	合　計		0.585	

0.585㎥×1,010,000円/㎥ = 590,850円
= 600,000円

舗装補修工　数量表

58.7m(橋長)×3.6m(幅員) = 211.3㎡
211.3㎡×1,500円/㎡ = 316,950円
320,000円

ひびわれ補修工　数量表

No.	ひびわれ幅(mm)	延長(m)	備　考
15	0.1	0.1	深さ0.03とする
16	0.1	0.1	
32	0.3	0.5	
33	0.2	0.5	
	合　計	1.2	

1.2m×22,000円/m = 26,400円
= 30,000円

韮崎市林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

１．基本的事項

小武川３号橋　　橋長 32.7m(1 径間)　総幅員 4.4m(有効幅員 3.6m)

建設年度　昭和 58 年(供用年数　36 年)　　橋梁種別　鋼I桁橋

２．対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

３．計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

４．施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

５．施設の状態等

道路橋の機能に支障が生じていない状態

６．対策内容と実施時期

平成 25 年度に補修工事(塗装も含む)が行われており、概ね健全である。

長寿命化対策として、5 年後の令和 6 年に定期点検の予定である。

７．対策費用

約　0.7(百万円)

※個々の施設毎に作成　　橋梁一覧（個票）

個別施設整理番号		林道台帳索引番号		施設管理者	韮崎市
路線名	小武川線	林道種類及び区分		橋梁名	小武川3号橋
施設の所在地	韮崎市円野町	起点からの距離		建設年度	昭和58年3月
供用年数	36年	種別	鋼橋	型式	鋼I桁
道路橋示方書	昭和55年	橋格（設計荷重）	二等橋	橋下条件	小武川

施設概要	施設の規模	橋長（支間長）	32.7m		幅員（車道幅員）	4.4m(3.8m)
	施設の構造等	上部工形式	鋼 I 桁			
			鋼製（使用鋼材）	―	塗装使用の有無	―
			支承型式	鋼製支承	落橋防止の有無	無
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	直接基礎
		橋脚工形式	不明		海岸からの距離	―
	施設の目的利用実態等	林道小武川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該橋梁は各自治体(国土交通省･山梨県)の工事業者等により頻繁に利用されている。又、当該林道は、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年8月21日				
	調査結果	平成25年度に補修工事(塗装も含む)が行われており、概ね健全である。				
	健全性の診断結果	I（健　全）	道路橋の機能に支障が生じていない状態			
	劣化原因	なし				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和5年度				
	内容	5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	今回の点検により、補修は行わない。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 継続中である森林関連工事のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用（概算）	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。又、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用（百万円）	0.7					0.7				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備　考

韮崎市林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

１．基本的事項

青木橋　　橋長 51.1m(2 径間) 総幅員 5.2m(有効幅員 4.0m)

建設年度　平成 14 年度(供用年数 16 年)　　橋梁種別　鋼H桁橋

２．対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

３．計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

４．施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

５．施設の状態等

道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態

６．対策内容と実施時期

桁下にひびわれが見られ、令和 2 年～令和 5 年に補修予定であり、5 年後の令和 6 年に定期点検の予定である。

７．対策費用

約　0.3(百万円)

※個々の施設毎に作成　　橋梁一覧（個票）

個別施設整理番号		林道台帳索引番号		施設管理者	韮崎市
路線名	御座石線	林道種類及び区分		橋梁名	青木橋
施設の所在地	韮崎市清哲町	起点からの距離		建設年度	平成14年度
供用年数	16年	種別	鋼橋	型式	鋼H桁
道路橋示方書	平成14年	橋格（設計荷重）	A活荷重	橋下条件	河川

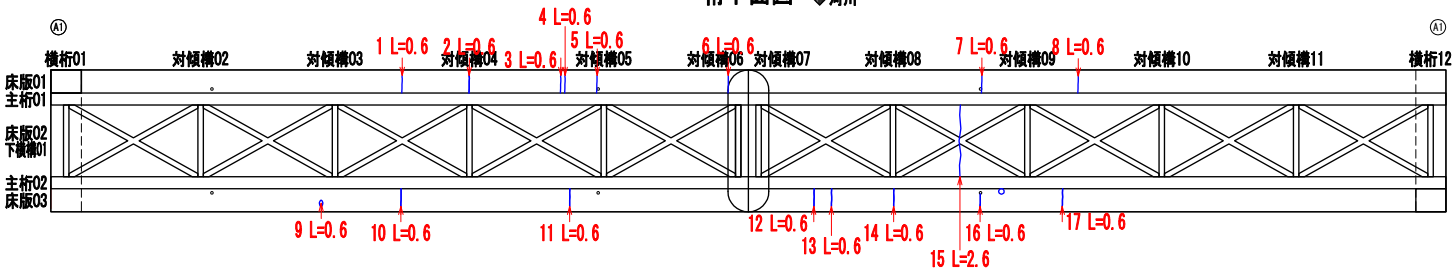
施設概要	施設の規模	橋長（支間長）	51.1m(25.55m)		幅員（車道幅員）	5.2m(4.0m)
	施設の構造等	上部工形式	鋼　H　桁			
			鋼製（使用鋼材）	―	塗装使用の有無	―
			支承型式	鋼製支承	落橋防止の有無	有
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	直接基礎
		橋脚工形式	不明		海岸からの距離	―
	施設の目的利用実態等	林道御座石線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多くはないが存在することから、当該橋梁は各自治体(国土交通省･山梨県)の工事業者等により、利用されている。又、当該林道は、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有しており、地域住民や観光客(登山等)の利用も見られる。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年8月22日				
	調査結果	張出床版にひびわれ･漏水･遊離石灰が確認された。このまま放置すると工事車両の通行による振動や内部に侵入した雨水により、鋼製支承の腐食等が進み、確実に劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ（予防保全段階）	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態			
	劣化原因	収縮ひびわれと思われる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和5年度				
	内容	ひびわれ補修工法により、補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮する。				
	施設の優先度	中	（優先度の考え方） 継続中である森林関連工事のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用（概算）	長寿命化対策として、桁のひびわれ補修工を早期に行うと共に、5年に1回の定期点検を行う。 又、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用（百万円）	0.7			0.3		0.7				
対策の内容・実施時期	定期点検			補修工		定期点検				

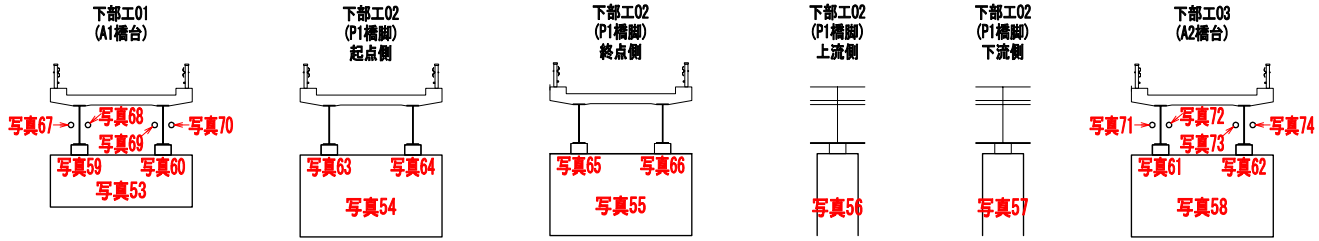
備　考

青木橋　概算数量図

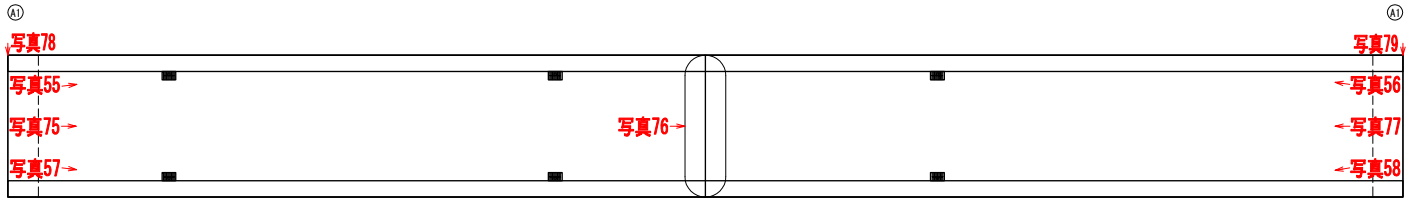
桁下面図



下部工図



橋 面 図



ひびわれ補修工　数量表

No.	ひびわれ幅(mm)	延長(m)	備　考
1	0.1	0.6	
2	0.1	0.6	
3	0.1	0.6	
4	0.1	0.6	
5	0.1	0.6	
6	0.1	0.6	
7	0.1	0.6	
8	0.1	0.6	
9	0.1	0.6	
10	0.1	0.6	
11	0.1	0.6	
12	0.1	0.6	
13	0.1	0.6	
14	0.1	0.6	
15	0.3	2.6	
16	0.1	0.6	
17	0.1	0.6	
合　計		12.2	

12.2m × 22,000円/m ＝ 268,400円

＝ 300,000円